「電気関係学会東海支部連合大会」特集号によせて

キーワード

電子, 情報, システム, 東海支部連合大会

大 熊 繁

名古屋大学大学院 工学研究科

1. はじめに

東海地区では、毎年電気関係の学会支部の共催により、東海支部連合大会を開催している。そのなかで、通常は異なる学会に所属しているために交流することのない研究者が一堂に会し、発表や討論を行うことにより、当地区の研究レベルの高揚を図っている。そこで、東海地区の電気学会C部門に関係する研究活動を広く全国に紹介するとともに電気学会C部門誌の発展に寄与することを目的として、「電気関係学会東海支部連合大会」特集を企画した。本稿では、電気関係学会東海支部連合大会の紹介と本特集号編集の経緯について述べる。

2. 平成6年度電気関係学会東海支部連合大会

電気関係学会東海支部連合大会（以下、連合大会と呼ぶ）は、現在、電気学会、電子情報通信学会、照明学会、テレビジョン学会、日本音響学会、ならびに情報処理学会の各支部の共催で、東海地区の大学（平成8年度は高専の予定）を会場として、2日間にわたり開催されている。大会では、特別講演、シンポジウム、一般講演が行われており、シンポジウム講演件数は約40件、一般講演は約800件である。参加者は延べ人数で約1,000名であり、毎年盛大に行われている。

平成6年度の連合大会は、平成6年10月6、7日の両日、岐阜大学で開催された。特別講演は「自然とのふれあい」の題目で名和昆虫博物館長にお願いした。シンポジウムは6テーマからなり35件の講演が行われた。一般講演は25部門に分かれて801件の講演が行われた。参加者は延べ人数で925名であり、参加登録者総数は1,216名であった。若手の研究者の研究意欲を鼓舞するために連合大会から奨励賞が18名に贈呈され、電気学会論文発表B賞が16名に贈呈された。懇親会は10月6日に岐阜大学の生協食堂にて開催された。125名の参加者があり極めて盛会であった。

連合大会は、年々講演件数と参加者が増加しており、東海地区における研究発表の場として、ますます重要性を増しているといえる。

3. 特集号編集の経緯

今回の「電気関係学会東海支部連合大会」特集号は、さ

きに示した平成6年度電気関係学会東海支部連合大会のシンポジウムと一般講演のなかから、電子・情報・システムに関する優秀な発表を論文にまとめていただき、特集論文として掲載するものである。これにより、東海地区のC部門に関係する活動を全国へ紹介し、併せてC部門誌の発展に寄与することを目的としている。

具体的な経緯を以下に示す。まず、8月下旬に電気学会C部門誌編修委員会からお話があり、早速、電気学会東海支部のC部門査読委員と、D部門と電子情報通信学会のなかで関係の深い査読委員とから下記のような小委員会を組織し、お受けすることになった。

小委員会委員：

後藤俊夫(名古屋大)、野村龍男(静岡理工科大)、宮崎保光(豊橋技科大)、伊藤宏司(豊橋技科大)、細江繁幸(名古屋大)、植田明照(愛知工大)、大熊 繁(名古屋大)、松井信行(名古屋工大)、斉藤制海(豊橋技科大)、藤原 修(名古屋工大)

小委員会顧問：

鬼頭幸生東海支部長(名古屋大、現在、豊田高専)

そこで、C部門に関係の深いシンポジウム・一般講演の講演発表者に手紙を出して、論文投稿の勧誘をするとともに、特集号論文募集の会告を学会誌（115巻、3号、平成7年）に掲載した。その結果、レター1件を含めて25件の論文が投稿された。東海地区では初めての試みであったにもかかわらず、多くの投稿があったことは、本企画の意義が当地区でも理解されたことを表しており、力強く感じられた。今後、会告の掲載時期を早めることにより、更に多くの投稿があるものと期待される。慎重な査読の結果、特集号に掲載が決まった論文は18件であり、採択率は72%であった。

4. おわりに

特集号を発刊するまでの経緯の概要を示した。このような機会を与えて下さったC部門編修委員会、電気学会東海支部、査読に御協力を賜った査読委員の方々、ならびに本部事務局編修課の方々に厚くお礼申し上げる。平成7年9月20、21日に名城大学で開催された連合大会についても、平成9年1月号において特集号を組ませていただく予定である。原稿締切は平成8年4月26日であり、会告は、学会誌1月号に掲載されている。特集号のますますの発展のため、積極的に投稿して下さいようお願い申し上げます。（平成7年11月20日受付）

The Special Issue on the 1994 Tokai-Section Joint Convention of
Institutes of Electrical Engineering, Japan.
By Shigeru Okuma (Nagoya University).